

## 『中日近代新詞詞源詞典』の編纂について

沈 国威

筆者は、『中日近代新詞詞源詞典』（商務印書館、陳力衛、朱京偉共編）の編輯に着手した。キャリアの総括として数年内の刊行に目指している。ここにその概要を述べておきたい。

### 一、なぜこのような詞源辞書が必要なのか。

概ね次のような二つの理由が挙げられる。1つは近代漢字語研究のためであり、究極的に大型国語辞書の語源記述のためである。語彙研究の立場からすれば大型語文辞書は、個々の見出し語についてその発生、流布、定着を含め、語形、意味の変遷を通時的な記述を行わなければならない。この点に関しては、Oxford English Dictionary (OED) が良い手本を示していることが周知の事実であり、また『日本国語大辞典』（小学館）も第2版（2002年）において語誌記述を充実させたことが特筆すべきである。一方、中国の『漢語大詞典』（漢語大詞典出版社、1994）は、多くの研究者から指摘されたように、出典、意味の変遷に関する記述において大きな不備がある。特に16世紀以降の洋学語彙や、19世紀以来の新語、訳語の場合、その欠落がいつそう顕著なものであり、もはや近代語彙の考究（本稿の中国語近代語彙は、16世紀以降のものを指す）に耐えうるものではないであろう。いま1つは、大きく言えば東アジアの近代化研究のためである。16世紀末、イエズス会士らの東来を皮切りに、19初頭プロテスタント宣教師も来華し、西洋の新事物、新概念を東洋に将来した。その過程で漢字文化圏において同形語の形を有する近代新語訳語が形成され、それはまた現代中国語語彙体系の主たる部分を成している。近代新語訳語の成立過程を追跡することは、まさしく東アジアの近代化の道のりを検証することであろう。

これまでに日中とも近代漢字語に関する研究では豊富な成果が収められた。本詞源詞典の編纂は近代語彙研究の成果を総括し、記録することに繋がるものと信じている。

### 二、これまでの研究蓄積について

近代漢字語に関する研究は、日本では20世紀70年代以降大きな高まりを見せており、豊かな学殖を残してくれた。一方、中国では、20世紀初頭、“新名詞”という形の問題提起があり、50年代末、高名凱・劉正焱の『現代漢語外来詞研究』（1958）や王力の『漢語史稿』の他に王立達らの論考があった。しかし本格的な研究は、劉正焱等編『漢語外来詞詞典』（1984）からであろう。特に近年、科学史、概念史からのアプローチが多く為され、それにより近代漢字語研究

が大いに促された。本詞典の編纂は言うまでもなくこのような先行研究の成果を基礎としている。特に下記のような近年日中で出版された詞源詞典が重要であろう。

- 惣郷正明・飛田良文編『明治のことば辞典』(1986、収録語数 1341 語)
- 杉本つとむ『語源海』(2005、収録語数不明)
- 佐藤亨『幕末・明治初期漢語辞典』(2007、収録語数 4482 語)
- 黄河清編『漢語新詞詞源詞典』(2001、収録語数 5275 語)
- 同編『近現代辞源』(2010、収録語数 9500 余語)

杉本氏の『語源海』は漢字語だけ扱うのではないが、これらの語源辞書は、近代漢字語の重要なものをほぼ網羅していると言って良い。敢えて問題点を指摘すれば、日中双方の研究成果の融合が課題であろう。

### 三、データベースについて

IT 技術の進歩とコンピュータの普及により、近代語研究の環境が劇的に変化した。各種のデータベースの整備により、初出典の確認は、簡単且つ高精度で行うことができるようになった。漢籍のデータベースとして、本詞典の編纂作業に下記のものを利用することになる。

研究機関によるコーパス・サービス

- 台湾政治大学「中国近現代思想及文学史 1830-1930 專業數據庫」
- 台湾中央研究院歴史語言研究所「漢籍電子文献資料庫」
- 関西大学「近代中国語コーパス」
- 台湾中央研究院近代史研究所「英華字典データベース」

市販コーパス

- 『申報』コーパス
- 「全文検索版拇指数据库近代刊行物 128 種」
- 『四庫全書』
- 中国古典庫
- 『東方雑誌』(商務印書館)

日本には「太陽コーパス」など小規模のデータベースがあるが、蘭学文献はもとより、幕末、明治初期以来の文献を検索できるデータベースの整備が望まれる。

### 四、詞源詞典は何を明らかにする予定か

日中同形の近代新語訳語を中心に、その語源、語誌、初出、造語者、理據(外部、内部)、伝播、定着、変容等を明らかにする。そのため、できるだけ出典を時代順に示し、語形、意味の変遷を明らかにする必要がある。

## 五、 詞典のサイズと見出し語の選出方法

本詞典は、二音節語が中心に見出し語を 3500～4500 収録する予定である。外国人のための中国語学習語彙表は全語彙数 11092 語のうち、二音節語が 8390 語であることを考え合わせれば、抽象語彙を含む近代新語訳語のほぼ全数がカバーされることになるであろう。見出し語の候補は以下のような手順で選出した。

- 『現代中国語常用詞表（草案）』（商務印書館 2008）に収録された 56008 語にある二音節以上の語に対し、『広辞苑』第 5 版を利用し、日中同形語を選出する。総数 16313 語を得た。
- 上記 16313 語に日中近代漢字語研究の諸リスト（上記の語源辞書の他に劉正焱等編『漢語外来詞詞典』なども）を加えていく。
- 重複を除いた 18000 余語について、筆者が意味、文体等に見る近代の特徴という観点から 5100 語選出し、見出し語候補リスト（案）とした。

これから微調整があるが、このリストを中心に編纂作業を進めていくことになる。

## 六、 詞典の記述方式について

次ページに杉本、佐藤、黄の三氏の語源辞書のサンプルを掲げている。出典中心のものもあれば、語の成立を中心に記述するものもある。本詞典は、日中の語源、つまり初出例を中心に記述していく予定である。なお、近代語の 1 つの大きな特徴は、訳語としての発生である。従って本詞典は 19 世紀の英漢、英和辞書からの用例採集にも大きな比重を置いている。同じく近代語と言っても「民主、社会」のような現代社会にとって非常に重要なキーワードもあれば、「電報、電話」のような現在の社会生活において欠くことのできない「文明の利器」を表す語もある。「電鈴、鋌金」となれば重要性と使用頻度がいっそ低くなる。本詞典は、見出し語を ABC と三つの語群に分ける。A 群は近代のキーワードで、近代概念史においても重要な語、計 100 語になる見込みで、1000 字前後で記述する。B 群は近代の技術進歩を反映するもので、計 300 語の予定で、500 字で記述する。C 群はその他の一般語彙であり、4000 前後になるかと思われる。300 字で記述していく。

記述は、まず中国語の見出し語、ピンイン、そして日本語の見出し語、ローマ字、英語による訳語、漢字文化圏の状況を示すものとして韓国語、越南語も付けておく。記述の手順は下記の通りである。

1. 「書證 CN」は、中国の書籍における出典の有無を確認する部分である。これには、四書五経や宋明の理学書など伝統的な学問内容を持つ書物とイエズス会士やプロテスタント宣教師らによる前期、後期の漢訳洋書が含まれる。
2. 「書證 JP」は、主に蘭訳書、日本幕末明治初期以降の訳書群を指す。

3. 辞書は、中国系と日本系に分けて記述していく。主な英華、華英辞書、英和、和英辞書の他に国語辞書も用例採集の範囲に入る。
4. 「考察」は、語の生い立ちを明らかにする部分である。本辞典は見出し語の意味に触れない代わりに語の発生、伝播、定着をできるだけ詳細に捉えようとする。「考察」では、概念伝来の初期段階に目を配り、次に、当該概念の語彙化過程を明らかにしていく。また伝播、普及と定着を文献資料と辞書類で検証する。
5. 「参考文献」では、語彙史だけではなく、近代思想史、西洋概念受容史等の研究にも貢献できるようにしておきたい。

このような大型語源辞書は言うまでもなくこの分野の研究者の叡智を結集させなくてはならない。下に掲げているのは、辞書編纂の共同作業シートである。なお、文末に沈ゼミで完成した試作品を付しておく。

執筆者：沈		No. 1	
㊦ 手續	shou xu	㊦ 手續	
㊧ 手続	tetsuzuki	㊧ 手続	
㊨ procedure		㊨ 中→日	
書證 CN	無		
書證 JP	滑稽本・八笑人(1820-49)：そこから二人で手続をおぼえてくださったし。		
辭典 CN	马礼逊词典：(1822)：Procedure 不收。《英华字典》(1866-69)：Procedure=办法、行規。《英华大辞典》(1908)：Procedure=办理之秩序，办法，行規，次第。《辞源》(1915)：E-C 辞典(1916)：		
辭典 JP	蘭学辞典不收。《英和对译袖珍辞书》(1862)：Conclusion, Corollary, Inferible=手續。《英和語林集成》(1866)：《附音插图英和字汇》(1873)：Corollary=手續。《佛和法律辞汇》(1885)：Procedure=诉讼手續。『言海』(1891)：		
考察	“手續”与密教有关，密宗仪轨一类的抄本上多见“其手續更向”的例子，义即“次第”。“手續”随密宗传入日本，江戸后期作为口语词汇使用。《佛和法律辞汇》以后成为法律词汇并逐渐普及到日常生活中。 1900年以后“手續”由留日学生借入汉语。《新尔雅》(1903)：凡立法之手續(手續者经历一定方法之谓，如立法，必先发案，次议决，次公布是)各国不同。《中华大字典》(1915)：手續，日本谓行事之次叙也。...我国近作“程序”		
参考文献	《俗语佛源》		

備忘：

てつがく 【哲学】 tetugaku ㊦ 人間と

して根源的在り方を究明する精神科学。㊦ 哲学。philosophy.

題▶ オランダ語 philosophie, philosophie で日本に紹介される。原語フィロソフィはフィロ philo がギリシャ語で愛、ソヒアは同じく知恵、したがって知恵ヲ愛スル学が原義。直訳は〈愛知学〉、さらに意識して、〈理学〉、〈哲学〉、また〈原理〉などとも訳す。

例▶ ○philosophie. 知学/西洋ノ儒教(星術) ○philosophie. 理学科ノ官名/philosophy. 理学科ノ学修(訳鍵) ○philosophie. 究理家(檢籙) ○philosophia. 斐録所費亜(宇田川榕庵) ○哲学(西周) ○Philosophy. 哲学(哲学字彙) ○Philosophy. 哲学、学問の最高尚なる者にて天地の大道を究むるを目的とす(高橋いろは辞典)

▶ 哲学の哲は〈先哲・賢哲・哲理〉など儒教関連で江戸時代に広く用いられた。また〈理学〉は中国でいう性理学の略。西洋の哲学に通じる中国の哲学で、日本もこれを借用。

哲学 zhé xué 关于世界观的学说。

艾儒略在《取方外纪》(1623年)中,称哲学为“性学”和“斐录所费亚”。“斐录所费亚”是拉丁文 philosophia 的音译。◇爱智、爱知学、智学、玄学、格学、格物学、理学、哲学、性理学、超性之学、庶物原理想、非罗沙非、斐洛苏非、斐录锁斐亚。其中非罗沙非、斐洛苏非为英语 philosophy 的音译,“斐录锁斐亚”为拉丁文 philosophia 的音译。“哲学”这词为日语词,于19世纪七八十年代传入中国,如1879年杨少坪《增广英字指南》卷二:“philosophy, 哲学, 性理学。”1889年傅云龙《游历日本图记》卷二十下:“所谓哲学者, 西学中之性学也。”

哲学家 zhé xué jiā 从事哲学研究工作的专家。1879年杨少坪《增广英字指南》卷三:“Philosopher, 哲学家。”1899年梁启超《自由书·不婚之伟人》:“顷读某报, 列举近世不婚之伟人, 如史学家之吉朋、谦谟、伯格儿, 哲学家之笛卡儿、巴士卡尔、斯宾挪莎、康德、霍布士、陆克、卢梭、边沁、斯宾塞, 科学家之奈端、斯密亚丹, 文学家之福祿特、格黎, 政治家之维廉、加富尔、梭马, 皆终身独居之人也(此外尚多, 不能枚举, 举其最知名者耳)。文豪索士比亚、摆伦皆有妻, 而极言有妻之害, 谓天才与妻不能两立者也。”

杉本つとむ編『語源海』

黄河清編『近现代辞源』

◆てつがく 哲学

①「是は今申す哲学といふ様なもの」(『遊學内朝』明治二年(八〇〇)「こゝろ」真葉集(一))

②「兼テ教ノ方法ヲ立ツルヲヒロソヒ、訳シテ哲学ト名ケ、西洋ニテモ古クヨリ論ノアルコトデゴザル」(『西周』明治七年(八〇七)「百一新編」下)

③「自然界ニ存在スル原因ニ由テ事物ヲ解釈スルハ理学ナレド、哲学モ亦何物カラ解釈スル者タルヲ疑フナシ。サレバ哲学ト理学ト異ナル者ナリヤ」(『フェノロサ』明治十一年(八二〇)「政治学講義(二回)」)

④「Philosophy 哲学」明治十四年(八二六)「哲学字彙」

⑤「加之哲ノ字、学モ亦又ニ由テ従来ノ妄想主義ヲ脱シテ専ラ人性ノ実理ヲ研究スルモノトナリ」(加藤弘之・明治十六年(八三〇)「八権新説」三巻一)

意味・出自 ものこの基本原理を追求し、研究する学問。西周・明治二年(八〇〇)『百学連環』二・七に「哲学を理学、或は窮理学と名づけ称するあり」と、Deborahの訳語に「哲学」の外「理学」「窮理学」を宛てたことが知られる。また、津田真道「開化ノ進ル方法ヲ論ス」(明治七年(八〇三)三月「明六雜誌」三三)に、「近今西洋ノ天文、格物、化学、医学、経済、希哲学ノ如キハ実学ナリ」と「希哲学」がある。これは、

◆てつがくか 哲学科

「漢字ナキ者ハ、固ヨリ哲学科ニ入ルコト能ハザリナリ」(西村夜樹「漢字ニ基アル者ハ洋字ニ進ミ非常ニ効力ヲ顯ハス事」明治二十年(八七五)五月「東京士会院雜誌」九・四)

意味 哲学について研究する専攻課程。

◆てつがくしや 哲學者

①「一種ノ哲學者ヨリ之ヲ見レバ碑文指祭ノ如キ無用ノ事タルベシト雖下モ」(東海散士・明治十八年(八六〇)「佳入公書通」七)

②「若シ哲學者ソノ妄想ヲ排斥セントスルノ余リニ、ソノ中ニ含メル真理アルヲ察セシメテ」(中村正直「漢学不可廢論」明治二十年(八七五)「東京士会院雜誌」九・四)

③「凡二十年の頃哲學者タレスは米、アナキシメニスハ英、(ラクリトスハ火を以て大元とシ、)津田真道「唯物論」明治二十八年(八八四)月十四日講稿

意味 哲学の研究をする学者

佐藤亨編『幕末・明治初期漢語辞典』

## No. 1 執筆者：徐克偉

㊦	解剖	jiěpōu	罇	解剖	해부
㊧	解剖	kaibou	越	解剖	Giải phẫu
莢	anatomize, dissect (v.t.); anatomization, dissection (n. c/u)		㉔ 中→日→中		
書證 CN	* 黃帝內經·靈樞經·經水第十二：若夫八尺之士，皮肉在此，外可度量切循而得之，其死可解剖而視之。				
書證 JP	* 解屍編（1772）解剖而視 * 解體新書（1774）解剖而視，解剖而視 * 厚生新編（1811-1845）第一には魚類を解剖其所藏百器の名目を建るに在り * 解剖訓蒙（1872）				
辭典 CN	* 麥都思英漢字典（1848）：尸解 an expression employed by sect of Taou, for some conjuring tricks; * 英華字典（1866-69）：Dissect 剖身… Dissection 剖身者…; * 英華大辭典（1908）：Dissect, dissection 解剖; * 德英華文科學字典（1911）：Sektion, dissection; Sezieren, to dissect 解剖; * 辭源（1815）：解剖				
辭典 JP	* 青木昆陽（1754）：ontbinding 人ノ臟腑ヲトク; * 稻村三伯（1796）：ontleeding, 解剖スル; * 英和对訳袖珍辞書（1862）：Analysis, 解剖. 分離; * 医語類聚（1872）：Dissection 解剖				
考察	在中日两国的典籍中，除了“解剖”一词外，别有“解”、“割”等词指称解剖行为。在日本，第一本译自荷兰语的解剖书名为《解体新书》（1774），但是到了幕府末期（1850年代）前后，“解剖”逐渐取代了“解体”，作为医学术语固定下来。在中国，传教士的解剖学译著使用“全体”，如合信的《全体新论》（1855），柯为良的《全体阐微》（1878），德贞的《全体通考》（1886）等。但，德贞的书中同时使用了“解剖”。				
參考文獻	沈国威「近代における漢字學術用語の生成と交流：医学用語編（1）」、日本松蔭女子学院大『文林』第30号1996年59-94頁；高晞《‘解剖学’中文译名的由来与确定：以德贞〈全体通考〉为中心》，《历史研究》2008年第6期，第80~104页。				

## No.2 執筆者：徐克偉

㊦	解剖学	Jiěpōu xué	罇	解剖學	해부학
㊧	解剖学	Kaibou gaku	越	解剖學	Giải phẫu học
莢	Anatomy		㉔ 日→中		
書證 CN	无				
書證 JP	松村矩明《解剖訓蒙》（1872）解剖學ノ教頭；此書ハ解剖学ヲ脩メル者ノ門戸ニシテ				



**辭典 CN** \*馬禮遜字典(1822) ANATOMICAL plate 仰人骨度部位圖；正面人圖；\*英華韻府歷階(1844)：ANATOMY 骨節臟腑；\*麥都思英漢字典(1847-48)：ANATOMY 剖屍之法、外科破肢之方；\*英華字典(1866-69)：Anatomy 剖屍之法，百體生之理，百體生論；\*英華萃林韻府(1872)：Anatomy 骨節臟腑、剖屍之法、外科破肢之方；\*鄭其照字典集成(1868)：Anatomy 剖屍之法\*博醫會 First Report(1901)：Anatomy 體學；\*英華大辭典(1908)：Anatomy 屍骨、骸骨、解剖之物、似經解剖之物；屍骨、骸骨、解剖之物、似經解剖之物；百體生論、解剖課本；百體結構之理；剖屍之法、外科破肢之方、解剖術；\*辭源(1915)：解剖學 Anatomy

**辭典 JP** \*宇田川榕庵(1798-1846) 中西雜字簿、博物語彙：anatomica 解剖学；\*英和对訳袖珍辞書(1862)：Anatomy, 解剖学；\*奥山虎章医語類聚(1872)：An[at]omy 解剖学；\*和英語林集成(1866)：Anatomy：Fuwaki(腑分き)、Kaibō(解剖)；\*訂增英華字典(1884)：Anatomy 解剖学

**考察** 《靈樞經》見“解剖”一詞，但學科概念的出現則是受西方醫學影響的結果。明末鄧玉函等來華耶穌會士最早以“人身”“人身說”等稱之。18世紀末，日本蘭學家稱“解體”、“解體瘍科”等，後來又形成“解剖(科)”“解體(科)”等術語的對立，并逐漸固定為“解剖學”。19世紀中葉來華新教傳教士合信等以“全體”“全體學”稱之，而“解剖學”一詞或以德貞所譯《全體通考》(1886)為最早，除了譯文，別有清政府駐日公使館副使張斯桂序言，論述在日本“解剖所”的見聞。

**參考文獻** 沈国威「近代における漢字學術用語の生成と交流：医学用語編(1)」、日本松蔭女子学院大『文林』第30号1996年59-94頁；高晞：《‘解剖学’中文译名的由来与确定：以德贞〈全体通考〉为中心》，《历史研究》2008年第6期，第80~104頁。

### No.3 執筆：王麗娟

㊦	阴极	yinji	𠄎	陰極	음극
㊧	解剖	inkyoku	越		Điện cực âm
莢	negative pole; cathode		㊦ 中→日→中		

**書證 CN** \*格物入门(1868)：二氣之所聚是也、蓋二氣名分陰陽、陽氣聚於陽極、陰氣聚於陰極

**書證 JP** \*舍密開宗(1837)：近時七色ヲ越列機ノ兩極ニ配シ紅ヲ積極トシ堇花色消極トス。\*民間格致問答(1862-4)卷四：此事を陰積と名け、まさ陰る越列歳懸ると名くるるや。陽積とは物がわると云意味と知ぜ。\*舍密局必携(1862)卷一：越列機(エレキ)消極體積極體。瓦爾華尼機(ガルハニ)ヲ以テ物体ヲ分離シ、此時積極ノタメニ分離サルル者ハ、消極體ニシテ、

一ノ符号ヲ用ヒ、消極ノタメニ分離サルル者ハ積極體ニ十ノ符号ヲ用ユ。\*物理全志(1876): 故ニ之ヲ名ケテ極ト云フ即チ最下ノ銅板或ハ之ニ繋キタル銅線ノ端ヲ陽極ト云フ最上ノ亜鉛版或ハ之ニ繋キタル銅線ノ端ヲ陰極ト稱スルナリ

**辭典 CN** \*英華字典(1866-69): the negative pole: 阴极; \*英華大辭典(1908): the negative pole: 阴极; \*辞源(1915): negative electrode 电学名词。電池两极之一。

**辭典 JP** \*和蘭字彙(1855-58): 無; \*英和对訳袖珍辞書(1862): 無; \*附音挿図英和字彙(1873): negative pole 消極; \*和英語林集成 3 版(1886): Negative, uchikesi no kotoba. -pole, shōkyoku. -answer, iya to iu henji. ; \*工学字彙(1888): cathode 阴极

**考察** “阴极”在古代中国意为“阴气极盛”。在清末传教士用语中曾经出现了“陰端、負極”的称法。羅存德的《英華字典》中出现了与今义相同的义项，即电学“阴极”的义项。随着汉译西书传入日本，兰学译词“消极”逐渐被“阴极”所取代。至明治 80 年代，“阴极”作为电学的术语趋于稳定。

**参考文献**

#### No.4 執筆者：王麗絹

⊕	阳极	yangji	陽	陽極	양극
⊖	陽極	youkyoku	越		Điện cực dương
莢	positive pole; anode		☞ 中→日→中		

**書證 CN** \*格物入门(1868): 二氣之所聚是也、蓋二氣名分陰陽、陽氣聚於陽極、陰氣聚於陰極

**書證 JP** \*舍密開宗(1837): 近時七色ヲ越列機ノ兩極ニ配シ紅ヲ積極トシ堇花色消極トス。\*民間格致問答(1862-4)卷四: 此事を陰積と名け、まさ陰る越列歳懸ると名くるるや。陽積とは物がわると云意味と知ぜ。\*舍密局必携(1862)卷一: 越列機(エレキ)消極體積極體。瓦爾華尼機(ガルハニ)ヲ以テ物体ヲ分離シ、此時積極ノタメニ分離サルル者ハ、消極體ニシテ、一ノ符号ヲ用ヒ、消極ノタメニ分離サルル者ハ積極體ニ十ノ符号ヲ用ユ。\*物理全志(1876): 故ニ之ヲ名ケテ極ト云フ即チ最下ノ銅板或ハ之ニ繋キタル銅線ノ端ヲ陽極ト云フ最上ノ亜鉛版或ハ之ニ繋キタル銅線ノ端ヲ陰極ト稱スルナリ

**辭典 CN** \*英華字典(1866-69): the positive pole: 阳极; \*英華大辭典(1908): the positive pole: 阳极; \*辞源(1915): positive electrode 电学名词。電池两极之一。

**辭典 JP** \*和蘭字彙(1855-58): 無; \*英和对訳袖珍辞書(1862): 無; \*附音挿図英和字彙(1873):



無；\*和英语林集成 3 版(1886)：無；\*附音挿図和訳英字彙(1887)：positive pole 陽極；\*《工学字彙》(1888)：athode 陽極

**考察** “阳极”在清末传教士用语中曾经出现了“陽端、正極”的称法。在羅存德的《英華字典》中出现了与今义相同的义项，即电学方面的“阳极”的义项。随着中国汉译西书传入日本，兰学译词“积极”逐渐被“阳极”所取代。至明治 80 年代“阴极”作为电学的术语趋于稳定。

**参考文献**

No.5 執筆者：崔 惠善

㊦	括弧	kuohu	樽	括弧	괄호
㊧	括弧	kakkou	越	ngoặcdon	
莢			㊦ 中→日→中		

**書證 CN** \*黄遵宪致严复函(1902)：一曰跳行，一曰括弧，一曰最数，一曰夹注，一曰倒装语，一曰白问自答，一曰附表附图，此皆公之所已知己能也。公以为文界无革命，弟以为无革命而有维新。\*申报(1907.04.06)：右文凡括弧内之词系译者所注

**書證 JP** \*森鷗外かのやうに(1912)：左右の類に大きい括弧に似た、深い皺を寄せてゐる。

**辭典 CN** \*馬禮遜英華字典(1822)：parenthesis=文中插入的詞；\*英華韻府歷階(1844)：parenthesis=插句；bracket=鑲角；\*麥都思英漢字典(1847-48)：parenthesis=文中插入的詞；bracket=櫂；\*英華字典(1866-69)：bracket=狗脾撐，雙馬號，馬住佢、以雙馬號夾之；\*英華萃林韻府(1872)：parenthesis=插句、文中插入的詞；bracket=鑲角；brackets=括弧 kuo ‘hu(or wu)；\*英華大辭典(1908)：parenthesis=插句，註句(通常以括弧表之)；括號之一、括弧之一、括弓之一；德英華文科學字典(1911)：bracket=括弧、插句；\*辭源(1915)：括弧一文字中所用之符號。所以隔別上下使之顯明者。算學中用之尤多。詳括號條。；\*赫美玲英漢字典(1916)：parenthesis=插句，括號、括弓(新)、括弧(新)

**辭典 JP** \*英和对訳袖珍辞書(1869年増補版)：( )ノ間ニ挿シテアル文；\*片山平三郎(矢田堀鴻插译)、英華学芸辞書(1881)：brackets=括弧(クワツコ)；\*訂増英華字典(1884)：bracket=狗脾撐、雙馬號、括弧、馬住佢；parenthesis=夾句、插句；\*工学字彙(1886)：bracket=支挂、括弧；parenthesis=括弧；\*改正増補和英語林集成(1886)：Kwacko クワツコ括弧

**考察** 括弧类的使用早在 19 世纪兰学译书中就可以看到，但没有具体名称。例如，《英和对訳袖珍辞書》(1869)中对 Parenthesis 的解释为「( )ノ間ニ挿ミテアル文」。在中国，《英華萃林韻府》(1872)中的「数学天文学」术语集中首次出现「括弧」一词。之后在片山平三郎(矢田堀鴻插译)的《英華学芸辞書》(1881)中出现「括弧」，并开始在日本普及。《工

学字彙》(1886) 以及《和英語林集成》(第 3 版、1886) 中也陆续出现了「括弧」一词。

**参考文献** 佐藤亨「括弧」『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』明治書院、2007 年 112-113 頁

#### No.6 執筆者：賀楠

㊦	学位	xuéwèi	樽	學位	학위
㊧	学位	gakui	越	學位	Học vị
莢	degree		㊦ 日→中		
<b>書證 CN</b>	无				
<b>書證 JP</b>	*露団々 (1889) 一二「財産を相応にもって居る人、学位を持って居る人」；*吾輩は猫である (1905-06)「博士論文でも呈出して、博士の学位を受ける。」				
<b>辭典 CN</b>	*馬禮遜英華字典 (1822) : degree=等、級；*英華韻府歷階 (1844) : degree=等、等級、度；*英華字典 (1866-1869) : degree=級、階級；*英華萃林韻府 (1872) : degree=等、等級、層；*鄭其照字典集成 (1868) : degree=品級、等；*英華大辭典 (1908) : degree=學位, 品味；*商務書館英華新字典 (1913) : degree=級、階級、文人之學級；*赫美玲英漢字典 (1916) : degree=等級、品味、品級、學位；*辭源 (1915) : 學位-學業成就所得之位號也。如日本有博士學士。泰西諸國有博士碩士學士等。				
<b>辭典 JP</b>	*英和对訳袖珍辞書 (1862) : degree=階級、度、位；*增訂英華字典 (1884) : degree=級, 階級；*英和双解字典 (1885) : degree=度、等級、階級；*增補訂正英和字彙 (1887) : degree=等級、階級、度、位；*附音插图和訳英字彙 (1888) : degree=等級、品味、學位；*和訳字彙 (1888) : 等級、品味、學位、學等。				
<b>考察</b>	学位一词出现相对较晚, 中国古语中并没有相对应的名词, 近现代使用的学位 (比如学士、硕士、博士等) 一词, 应该是由英语的 degree 翻译而来, 这是中世纪欧洲大学的出现、发展和制度化的产物。Degree 一词最早的翻译, 自马礼逊开始译作“等、级”, 即用中国特有的科举制的名称来表达学位等级的概念 (秀才、举人、进士等), 之后在罗存德的英华字典中进一步丰富 degree 的含义 (中进士、中状元)。直到 1908 年顏惠慶·英華大辭典当中才出现了学位的义项。1879 年和 1880 年, 随着日本对欧洲大学制度化的吸收, 东京大学的三个学部就分别授予了毕业生学士和博士两种学位。degree 译作学位一词最早见于 1888 年日本島田豊《附音插图 和译英字彙》里。				
<b>参考文献</b>					

## No.7 執筆者：賀楠

㊦	教授	jiàoshòu	樽	教授	교수
㊧	教授	kyoju	越	教授	Giảng viên, giáo sư
莢	professor		㉞	中→日→中	
<b>書證 CN</b>	*史記・仲尼弟子列傳第七・卜商：孔子既没，子夏居西河教授，為魏文侯師。				
<b>書證 JP</b>	*続日本紀（730）：三月辛亥「但見諸博士、年齒衰老、若不教授、恐致絶業」；*帝国大学令（1886）：各分科大学の教官は教授及助教授とす。				
<b>辭典 CN</b>	*馬禮遜英華字典（1822）：professor=經書先生；*馬禮遜五車韻府（1865）：a kind of literary superintendent in a Foo district=教授；*英華韻府歷階（1844）：professor=博士；*麥都思英華字典（1847-48）：professor=學正、學師、文字先生、經書先生、函丈；Literary superintendent=教授、教諭；*英華字典（1866-69）：professor=學士、學師、博士、祭酒、國師；*英華萃林韻府（1872）：professor=博士、文字先生、詩賦先生、經書先生；*鄭其照・華英字典集成（1868）：professor=学师；同 1875 年版：professor=教师、先生；同 1887 年版 professor=书院大教师；*英華大辭典（1908）：professor=教習、教員、教授；*衛禮賢・德英華文科學字典（1911）：professor=大學教員；*商務書館英華新字典（1913）：professor=學士、教師、博士、大學教授；*赫美玲・英華辭典（1916）：professor=學堂教員、教員、教習、教授				
<b>辭典 JP</b>	*英和对訳袖珍辞書（1862）：professor=職業スル人、大學校ノ學頭；*増訂英華字典（1884）：professor=學士、學師、博士、祭酒、國師；*英和双解字典（1885）：professor=教師、官言者、大學校ノ學師、門徒；*増補訂正 英和字彙（1887）：professor=教師、官言者、大學校ノ學師、門徒；*島田豊附音挿図和訳英字彙（1888）：professor=法教師、教師、學士、大學校ノ教師；詳解英和辞典（1912）：professor=教授（大學等ノ）。				
<b>考察</b>	教授一词，最初见于史记，原意是动词，表示讲解传授知识、技能。在宋代才开始成为教师的称谓，当时宗学，律学，医学，武学等专业都设有教授。在中国汉、唐的大学中即设有此官职；中国汉、唐两代太学都设有博士，教授学生。博士就是后来的教授。宋代中央和地方的学校开始设教授。元代各路州府儒学及明、清两代的府学都设教授一职。在现代汉语与日本语的语境中，多作为英语“Professor”一词的同义语使用。日本于 1886 年发布帝国大学令，将“教授”这一称谓用于高等教育机构中执教的最高级别的教师，中国则是于中华民国临时政府教育部公布《大学令》，规定大学设教授、副教授。				
<b>參考文獻</b>	渡辺高蔵「教授」『現行法律語の史的研究上高理簡書房，1930 年 228 頁；二見剛史「教職員名称に関する一考察：「教授」を中心として」『日本大精神文化研究所教育制度研究所紀要』11，日本大精神文化研究所，1980 年 1-40 頁；劉凡夫「「教える人」を表す語の日本語彙				

の交渉史』『文芸研究』119、日本文芸研究会, 1988 年 22-31 頁; Federico Masini「教授」The Formation of Modern Chinese Lexicon and its Evolution toward a National Language; 佐藤亨「教授」『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』, 明治書院, 2007 年 185 頁

## No.8 執筆者: 齊燦

㊦	国语	guó yǔ	樽	國語	국어
㊧	国語	kokugo	越	國語	Quốc ngữ
莢	national language		㊦ 中→日→中		

**書證 CN** \*金史卷九・本紀第九・章宗一: 十二月, 進封原王, 判大興府事。入以國語謝, 世宗喜, 且為之感動, 謂宰臣曰:「朕嘗命諸王習本朝語, 惟原王語甚習, 朕甚嘉之。」\*明・楊循吉《金小史》卷二: 金人初用契丹字, 兀室乃用契丹漢人二家字合以国語, 制女真字。\*清・顧炎武《日知錄》卷二十九: 后魏初定中原, 軍容号令皆本國語。后染華俗, 多不能通, 故錄其本言相傳教習, 謂之國語。孝文帝命侯伏、侯可、悉陵以國語譯《孝經》之旨, 教于國人, 謂之《國語孝經》。\*清・龔自珍《龔自珍集》卷五: 史例隨代變遷, 因時而創。國朝滿洲人名易同難辟, 其以國語為名者, 如那丹珠、穆克登布、瑚圖禮、札拉芬、色卜星額、福珠靈阿之類, 相襲以萬計。\*申報 (1873. 7. 23): 其書以法語繕成者, 旁有西通事皮士馬者, 以華語繙譯上聞, 皇帝以國語數句回, 恭親王遂譯為華語, 皮士馬又譯為西語。\*柯劭忞《新元史》(1920) 卷三・本紀第三: 國語“成”為氣力強固, “吉思”為多數也。

**書證 JP** \*解體新書 (1774) 一「凡有物必有羅甸與國語、今所直識、悉用和蘭國語也」; \*隨筆・秉燭譚 (1729) 二「日本にて文尾に必あなかしこと書き〈略〉あなとは國語にて發語の音、かしことはおそることなり」; \*寄合ばなし (1874) 〈榊原伊祐〉初・下「別して此節は漢語ばやりで、國語 (コクゴ) で言へばつひわかる事を、漢語でむづかしくいふて」; \*文部省布達番外 - 明治五年 (1872) 九月八日「下等中學教則第六級 一國語 二數學〈算術と云ふ〉三習字〈書牘作文〉図画」

**辭典 CN** 馬禮遜、羅存德等人的英華辭典都沒有使用“國語”做譯詞; \*英華大辭典 (1908): The speech or expression of ideas peculiar to a particular nation or to a particular subject, 方言, 國語, 學語。A vernacular idiom, 本土之方言, 國語, 土語, 土話, 鄉談, 土白。A language, 國語, 語言, 文字; as, the Chinese tongue, 華文, 華語; the English tongue, 英文, 英語; mother-tongue, 本國話, 土語; \*赫美玲・英華辭典 (1916): national language=國語

**辭典 JP** \*和英語林集成 (1886): 國語=the language of a country, national language.

**考察** “國語”最早出現在中文典籍, 指一個朝代統治階級的本族語言, 具有“官方”、“國定”

的性质。不同时代的“国语”具体指称内容不同，但直至晚清，所指多为各种少数民族的语言，而非汉语。19世纪末，“国语运动”兴起，“国语”一词在中国流行开来，其意为中国的标准民族共同语，至1902年《钦定学制》，正式使用“国语”指称汉语。1955年，现代汉语规范问题学术会议召开，确定以“普通话”作为汉民族共同语的正式名称，代替过去通行的“国语”。自此，“国语”一词逐渐被弃用，但港澳台地区至今仍在使用该词。日语中“国语”一词具有多重含义，其表示“一个国家的通用语言”的含义应由汉语而来，此外其也用“国语”来指称日语，这一含义与“国语”最初在汉语典籍的意义相通。

**参考文献** 古田東朔「『国語』という語」『解釈』1-1, 解釈編集部, 1969年1-3頁; 京極興一「『国語』の語誌」『『国語』とは何か』東苑社, 1993年221頁

#### No.9 執筆者：齊燦

㊦	白话	bái huà	𪛗	白話	백화
㊧	白話	hakuwa	𪛘	白話	Bạch thoại
𪛙	colloquial		𪛚 中→日		

**書證 CN** \* 明·施绍莘·瑶台片玉·甲种·中编：平言淡语，只如白话，此词家最上。

**書證 JP** 无

**辭典 CN** \* 马礼逊英华字典（1822）：Provincial dialect=白話、土話、土談、鄉談，Fable=古事，白話；\* 麦都思英汉字典（1847-48）：native dialect=本地話、土音、鄉談、白話，patois=土音、鄉談、白話；provincial dialect=白話、土話、鄉談、土音；\* 英华字典（1866）：colloquial=俗話、俚語、鄉談、土音、日用之話、尋常話、相論之話。native language=土話、本地話、土談、土音、白話、土白。If you are not sufficiently acquainted with the Mandarin dialect, then help yourself with the colloquial. 官話唔够白話湊；\* 英華萃林韻府（1872）：provincial or native dialect=土音、土話、白話，patois or country idiom=鄉談、土話、白話；\* 英華大辭典（1908）：a provincial dialect=方言、土話、土白、鄉談；\* 赫美玲·英华辞典（1916）：colloquial=白話的、白話用的，白話，colloquial=通俗語

**辭典 JP** \* 增订英华字典（1884）：patois=土談、土音、白話、土白、鄉談、土話

**考察** “白话”的名称出现较晚，主要指在秦汉以后口语基础上形成的书面语。白话起初只用于通俗文学作品，如唐代的变文，宋、元、明、清的话本、小说等，及宋元以后的部分学术著作和官方文书。清·王之春·《椒生随笔》卷七：“南方人谓与闲谈曰白话，又空言无实际之谓，俗语也”。由此可见“白话”是比较浅显的、通俗易懂的，它虽然是口语的反映，但始终是一种书面体形式，并不完全等同于口语。进入二十世纪后，白话文运动兴起，白话取代文言，成为书面

语的正统。后来随着“官话”、“口语”等词的出现及逐渐流行开来，“白话”的使用范围逐渐缩小。“白话”一词在《申报》中亦有使用，但含义已与以往不同，泛指所有口语中的交谈，且不仅限于汉语。在日语中，“白话”一词是随着白话小说等文学形式传入日本而出现的，但该词所负载的意义，也即基于口语的书面体形式，并未在日本得到广泛应用。

**参考文献** 徐时仪. 汉语白话发展史. 北京: 北京大学出版社. 2007

No.10 執筆者：仇子揚

㊦	战争	zhan zheng	𢆶	戰爭	전쟁
㊧	戦争	sensou	越		Chiến tranh
𢆶	war, battle, fight, struggle		注 中→日→中		

**書證 CN** \*史記 以諸侯為郡縣、人人自安樂、無戰爭之患、傳之萬世。\*明一統志 荆山城，在鍾離廢縣西八十三里，梁魏戰爭時築。\*申報（1872.5.18）：是故與三國六朝，日事戰爭，其時用人盡取門第世家大族接踵於朝。\*申報（1874.1.23）：盛衰之理，雖曰天命，豈非人事哉，觀今時普法戰爭之事是也。\*申報（1884.8.28）：其兩船業已開行，抵印度，抵香港均因中法戰爭阻滯不前；\*申報（1884.8.28）：有自美國回者述及美有一奇女子，勇而且智。當時南北戰爭遽起，該女情深報國，奮然從軍，轉戰各地。

**書證 JP** \*白石先生手簡（1725 年左右）五：中々それらの事に貪着に及ばぬ事にて、百廢し後に天下の戦争は相止み候て。\*朝日新聞 1879 年 2 月 13 日朝刊：一昨年西南戦争の際大負傷せし兵士は当鎮台の病院にて療養せしが追々平愈する者多きに付近々に彼人々へ賞興を賜はるとの風評。\*朝日新聞（1880.4.13）：支那の民情は益々恟々として今にも戦争の起るかと思ふばかり。

**辭典 CN** \*馬禮遜字典（1822）：NEGOTIATIONS for peace being finished hostilities ceased 則和議成而戰爭息；\*英華字典（1866-69）：未收；\*英華萃林韻府（1872）：未收；\*井上哲次郎增訂英華字典（1884）：未收；\*鄺其照華英字典集成（1868）：Combat to. 爭鬪、戰爭、交戰、打仗；\*英華大辭典（1908）：Combat, contest, 戰爭, 舌戰；Contest, 2. A combat, 戰爭, 爭鬪, 交戰, 交鋒；Hostility, Acts of war, 戰爭, 交鋒；Strife, fight, 爭鬪, 爭打, 戰爭；Sword, war, 戰爭；War, 25. A contest between nations or states, or parties in the same state, carried on by force of arms, 打仗, 戰鬪, 交戰, 戰爭, 戰役；Warfare, 39. Contest, 戰爭；war, 交鋒, 戰事；Militate, 40. To stand opposed, 禦, 敵, 對敵；to make war, 攻, 戰爭；辭源（1915）：【日俄戰爭】民國前十二年。即西元一九〇〇年。中國有義和拳之亂。俄兵占據滿洲。不肯撤退。且伸勢力於朝鮮。日本與之協商無解決。一九〇四年二月日本遂宣戰。封



旅順。進兵滿洲所至皆勝。一九〇五年一月陷旅順。三月陷奉天。五月大破俄艦隊於日本海。八月美總統出為調停。兩國遂媾和於朴資茅斯。俄國承認日本為朝鮮之宗主國且以遼東半島之租借地長春以南之鐵道庫頁之南部讓與日本。\*辞源續(1933):未收

**辞典 JP** \*書言字考節用集(1717)九:戦争センサウ; \*和蘭字彙(1855-58):未収; \*英和对訳袖珍辞書(1866):warfare, 戦争、軍; war-red-ring, 戦争スル、軍スル; conflict, 突キ当リ、戦争、相撲; brawl, 喧嘩、騒動、戦争; interference, 仲入障碍. 害. 戦争(Warは「合戦」と訳されている); \*和英語林集成(初版・和英の部)(1867):Sen-so, センソウ, 戦争, a battle. -szru, to fight. Syn. TATAKAI, KASSEN. \*五国対照兵語字書(1881):Guerre, f.-Krieg, m.-War. -Oorlog, m.-戦争; \*和英語林集成(三版・和英の部)(1884):Sen-so, センサウ, 戦争, a battle, war:-suru, to fight, to engage in battle; -ga okoru. Syn. TATAKAI, KASSEN, IKUSA. \*兵語字彙草案第一号(1888):戦闘ヨリ意広シ、交際兩國ノ間ニ紛議ヲ生シ談判調ハサルトキ、此兩國各其権ヲ失ハサランヲ欲シ最後ニ施ス所ノ腕力手段、及ヒ内国ノ賊ヲ鎮圧スル腕力手段ヲ云。; \*英和袖珍字彙(1888):war, -ed -ing. 交戦スル、戦争スル、攻入ル、敵対スル、抵抗スル; \*言海(1889):せんさう(名)戦争 タタカヒ。イクサ。合戦。

**考察** 战争一词最早在史记和后汉书等古籍中即可看到其出处,但并不完全对应现代汉语与日语中的“战争”(即英语 war, 德语 krieg 等的译词)的概念,且近代以前作为翻译词其使用例也并不多见。比如\*罗存德英华字典(1866)中将 War 译为“打仗、战、交战、出战、动兵、攻国”等,而\*商务书馆英华新字典(1913)亦将 War 译为“打仗”、“战”、“交锋”。而战争一词有作为 Combat、Contest、Strife 等词的译词使用,通常与争斗,争打,战斗,交战等混同,在\*华英字典集成(1899)和\*英华大辞典(1908)中可以找到此类例证。

日本方面,在近世江户时代的文献中可以发现其用例出现。但是到明治时期初期为止,其用法基本和汉语相同,同样包含战斗、争斗、动兵等意并没有明确区分其不同。初期洋式兵学中关于 Oorlog, War, Krieg 的译词亦未用到战争一词,而是通常使用“戦役”、“合戦”、“軍”(いくさ)等。比如\*和蘭字彙(1855-58)就将 oorlog 翻译成“軍”,而\*和英語林集成(1867)的英和之部将 War 翻译成“いくさ”、“いくさする”、“たたかう”、但其和英之部中却将“戦争”英译为 battle, to fight, 同时注释“たたかい”、“合戦”为其近义词。另外,同一年代的\*英和对訳袖珍辞書亦将 War 翻译成“合戦”,而将“戦争”作为 warfare、conflict、brawl 的译词使用,与“軍”、“喧嘩”、“騒動”等义混用。1870年代后半受西南战争影响该词的使用率开始提升,逐步将“戦争”等同于 War 的概念并于明治中期左右将此用法定型。

而中国方面做出同步对应的的时间相对较晚,受到日清战争后日本带来的影响很可能是做出此对应的原因。

**参考文献** 前原透『兵語にみる日本の兵学と戦略』(1983)；佐藤治夫『ことばコンセプト事典』(1992)

No.11 執筆者：仇子揚

㊦	战役	zhan yi	罇	戰役	전역
㊧	戰役	seneki	越		Chiến dịch
莧	campaign		注 中→日→中		

**書證 CN** \*李太白集 卷五 門有車馬客行：生苦百戰役 死托萬鬼鄰；\*何博士備論 臣非故強也，恃助賞之積而卒至於強；兵非故驕也，恃戰役之勤而卒至於驕。\*申報（1874.12.31）：督憲可隨時簡立妥人充當，其頭目之戰役與差役等俱歸政務司管轄。\*申報（1905.1.6）：日本東京專電云（中略）日本軍允在旅順之各將校官帶劍宣誓，不再與現在之戰役，即准回國，否則作為捕虜。

**書證 JP** \*異人恐怖伝・下（1850）此時諸將既に異国に在て、劬勞なる戰役の艱難を経て大に疲倦し、財宝涸竭し；\*朝日新聞（1882.10.6）我国未曾有の戰役と聞えし明治十年西南の乱の劇しかりしは己に欧米の人の知る所ともなりて外賓の来る毎に戰地と覽んと求むるもの。

**辭典 CN** \*馬禮遜字典（1822）：未收；\*英華字典（1866）：未收；\*英華萃林韻府（1872）：未收；\*英華大辭典（1908）：Buckle. To join in battle, 與於戰列, 從事戰役; Combat, A fight, 爭戰; battle, 戰役, 小戰; War, A contest between nations or states, or parties in the same state, carried on by force of arms, 打仗, 戰鬪, 交戰, 戰爭, 戰役; Campaign, The time that an army keeps in the field, 出師、出師之時、戰役; Warlike, Pertaining to war, 戰事的, 戰役的, 戰爭的; Warfare, Military service, 戰役, 軍役; \*辭源（1915）：未收。

**辭典 JP** 和蘭字彙（1855-58）：未收；\*英和对訳袖珍辭書（1862）：未收；\*和英語林集成（初版・和英の部）（1867）：未收；\*五国対照兵語字書（1881）：未收；\*和英語林集成（三版・和英の部）（1884）：未收；\*兵語字彙草案第一号（1888）：戰役 軍隊ノ出発ヨリ凱旋マテノ摠操作ヲ云フ。又全軍中ノ一軍某時日ノ間、若クハ某地方ニ於テ、独立シテ為ノ所ノ操作ヲ云フ。又一戦争中間断ヲ生スル ハ前後ノ戰ヲ各別役ト云フ。言海（1889）：未收；\*独和兵語辭書（1899）：Feldzug, 戰役. 出師

**考察** 早期英华字典类未收。古汉语文献中有少数关于“战役”一词的用例，但其词义与战争，战斗等词并无明显区别，即没有对应现代汉语中“为实现一定战略目的，按照统一的作战计划，在一定的方向上和一定的时间内进行一系列战斗总和（相当于英语 Campaign, 德语 Feidzug）”的含义。

查日本文献，可以发现 1880 年代前关于 Campaign、Feidzug 的译词亦为“役”、“征役”等而并未使用“战役”一词。其使用频率得到明显提升是在 1894 年日清战争以后。虽然在兵语辞典之类的专用辞典里有关战役的解说中有提到强调战役的概念相当于“战争中的一系列战斗”，但在民间报刊报道中其用法依然与“战争”一词并无太大区分，基本作为同义词使用。可能受此影响，大正年代以后其使用例逐渐减少基本成为废词。

而近代汉语中关于“战役”的用法以申报为例表明 1905 年后该词使用量激增。以其内容多半是关于日俄战争（亦称日俄战役，明治三十七八年战役）为理由可以认定是来自日本的激活词。而关于“战争中的一次战役”，“某某战役”之类的用例是在 1910 年代以后开始有所增加，并从其用例变化可以看到做出了明确的意思区分重组不在与战争一词混用，确定了在现代汉语中的上述用法。

**参考文献** 前原透『兵語にみる日本の兵学と戦略』（1983）；片岡徹也・福川秀樹『戦略・戦術用語事典』（2003）

No.12 執筆者：杨帅可

㊦	体育	ti yu	躰	體育	체육
㊧	体育	taiiku	越		Thể dục, giáo dục thể chất
莢	physical education ; physical exercise		㊦ 日→中		
<b>書證 CN</b>	无。				
<b>書證 JP</b>	*教育.心理.論理術語詳解（1885）作为physical exercise的译词：「体育（タイイク）〈略〉体育の目的とする所は〈略〉身体の諸機関を一斉に生長且強壯ならしめんことを期する」；*風俗画報62号（1893）漫録「真正の教育法即ち德育智育体育（タイイク）を併せ行はれしむるものなり」				
<b>辭典 CN</b>	*英华字典（1866-69）：未收“体育”。physical training, 身教、身体练习；*英华大辞典（1908）：physical education, 体育；*辞源（1915）：體育學名詞。所以輔助身體成長發達者。主要為體操運動。在教育上與德育智育並重。				
<b>辭典 JP</b>	*英和对译袖珍辞书（1862）：未收；*英和語林集成（1867）：未收；*附音插图英和字汇（1873）：未收；*教育.心理.論理術語詳解（1885）：physical exercise, 体育。				
<b>考察</b>	“体育”是教育学术语。“体育学”早于“体育”出现。体育学（たいいくがく）：《教育学》（1882）〈伊沢修二〉「身体上の教育、即ち体力を育成するは、体育学の専科に属する所にして」，体育：《教育.心理.論理術語詳解》（1885）。				

罗存德《英华字典》(1866-69)未收“体育”，以“身教、身体练习”作为 physical training 的译词。《新尔雅》(1903)在释教育(64页)中对“体育”进行了解释“發達人之身體而使堅強耐勞者謂之體育。”颜惠庆《英华大辞典》(1908)“体育”作为 physical education 的译词被收入。

**参考文献** 惣郷正明・飛田良文「体育」『明治のことば辞典』東京堂出版 1986 年；佐藤武義「体育」『日本語の語源』2003 年，4344 頁；佐藤亨「体育」『現代に生きる幕末・明治初期漢語辞典』，明治書院 2007 年 569 頁